

《担当者名》 教授 / 古市 保志furuichi@ 教授 / 長澤 敏行nagasawa@ 教授 / 伊藤 修一shu@
 講師 / 森 真理marichan@ 講師 / 加藤 幸紀satsuki@

【概要】

う蝕が進行すると歯髄や根尖性歯周組織に病変を生じさせる。歯髄や根尖歯周組織に波及した病変の検査・診断法を理解し、さらに治療法としての歯内療法学の概念と基本的知識を学習する。

【学修目標】

- 歯髄の構造上の特異点を説明する。
- 歯の根尖部の構造を説明する。
- 歯髄疾患の臨床的分類を説明する。
- 根尖性歯周疾患の臨床的分類を説明する。
- 歯髄疾患の検査・診断法を説明する。
- 根尖性歯周疾患の検査・診断法を説明する。
- 歯髄炎と根尖性歯周疾患の鑑別診断法を説明する。
- 歯髄保存療法の適応症と禁忌症を説明する。
- 歯髄切断法の適応症と禁忌症を説明する。
- 抜髄法の適応症と禁忌症を説明する。
- 根管長の測定方法を説明する。
- 急性根尖性歯周炎の治療法を説明する。
- 感染根管治療の意義と適応症を説明する。
- 感染根管治療と抜髄法の根管拡大の差異を説明する。
- 根管拡大・形成法を説明する。
- 根管の化学的清掃剤を説明する。
- 根管の消毒と使用薬剤を説明する。
- 根管充填の目的を説明する。
- 根管充填の時期を説明する。
- 側方加圧充填法を説明する。
- 垂直加圧充填法を説明する。
- 外科的歯内療法の適応症と種類と術式を説明する。
- 歯内治療における偶発事故の種類と処置と予防法を説明する。
- 加齢を考慮した歯内治療を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	1. 歯髄の形態と機能 1) 歯髄腔の形態 2) 歯髄の組織学	歯内療法学の基礎概念と歯内治療の原理を説明する。 根尖狭窄部に重点をおいて理解する。 歯髄は炎症が起こると血液循環障害が生じやすいために治癒しにくい環境にあることが、解剖学的・組織学的に説明する。 E3-1)-	古市 保志
2	歯髄疾患の検査 1) 問診 2) 視診 3) 触診 4) 打診 5) 動揺度 6) 生活テスト (歯髄電気診、温度診)	それぞれの診査法の意義と、術式について説明する。 E3-3)-(2)- 、E3-2)-	古市 保志
3 4	歯髄疾患と根尖性歯周疾患の分類とその特徴 1) 歯髄疾患の臨床的分類 2) 根尖性歯周疾患の臨床的分類	歯髄疾患と根尖性歯周組織疾患の病態の特徴について説明する。 E3-2)- 、 E3-3)-(2)- 、	加藤 幸紀
5	治療法 () 1) 消炎鎮痛療法 2) 覆髄	可逆的な歯髄変化における治療法について説明する。 歯髄保存療法の意義、適応症、術式について説明す	伊藤 修一

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	3) 断髄	る。 歯髄の一部除去療法について、目的、意義、適応症、術式について説明する。 E3-3)-(2)-	
6	確認テスト 1	これまでの講義内容の確認テストとフィードバック	加藤 幸紀
7	治療法() 1) 抜髄 2) 感染根管治療	抜髄法の目的、意義、適応症、術式について説明する。 根尖性歯周疾患に対する治療の目的、意義、適応症、術式について説明する。 E3-3)-(2)- 、 、	森 真理
8	根管拡大・形成 1) 根管長の測定 エックス線写真を利用する方法 電氣的根管長測定法 手指の感覚を利用する方法 患者の知覚を利用する方法 2) 手用ファイルによる根管拡大・形成法 3) ローター・ニッケル・チタンファイルによる根管拡大・形成法と根管充填法	歯内治療(根管治療)を行う場合、根管長を知ることが非常に重要となる。根管長測定のための各種方法の特徴について説明する。 根管治療法である根管拡大・形成の意義について説明する。 根管拡大・形成の手法及び使用機材について説明する。 ロータリー・ニッケル・チタンファイルの特徴について説明する。 ロータリー・ニッケル・チタンファイルの使用法について説明する。 クラウンダウン法について説明する。 E3-3)-(2)-	森 真理
9	根管消毒	根管治療における根管消毒の重要性について説明する。 各種根管消毒剤の効果・効用について説明する。 E3-3)-(2)-	伊藤 修一
10	根管充填 1) 意義 2) 根管充填材(剤) 3) 術式	根管治療の最終段階である根管充填の基本事項を説明する。 根管充填材の特性について説明する。 各種根管充填方法について、目的、適応、術式を説明する。 E3-3)-(2)- 、	伊藤 修一
11	確認テスト 2	歯髄・根尖歯周組織疾患の診断・治療法に関する確認テストとフィードバック	加藤 幸紀
12	外科的歯内治療 1) 適応症 2) 方法・術式 外科的排膿路の確保 根尖搔爬術 根尖切除術 ルートリセクション(ルートアンブレーション) ヘミセクション/トライセクション ルートセパレーション 再植	外科処置を行う目的について説明する。 各種外科処置の目的、適応、術式について説明する。 E3-3)-(2)-	長澤 敏行
13	歯根内部吸収・歯根外部吸収 外傷歯の診断と処置 歯内治療時における偶発事故	歯根吸収の原因、症状、診断及び処置を説明できる。 E-3-3)-(3) 外傷歯の症状、検査、治療について説明する。 歯内治療時の偶発事故の原因、症状、対応及び予防法について説明する。 E3-3)-(2)- 、	加藤 幸紀

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	象牙質知覚過敏症 1) 象牙質知覚過敏症 2) 象牙質知覚過敏症の処置 歯の損耗 1) 咬耗症 2) 摩耗症 3) アブフラクション 4) 歯の酸触症 変色歯の漂白 1) 変色歯の分類 2) 変色歯の漂白	象牙質知覚過敏症の原因、症状及び処置法について説明する。 3-2)- 、E3-3)-(1) 機械的・化学的刺激による歯質の喪失に関して、種類・症状・成因・対応について説明する。 E3-2)- 、E3-3)-(1) 変色歯の診断、種類、及び対応方法について説明する。 3-2)- 、E3-3)-(1)	伊藤 修一
15	歯内 - 歯周病変 加齢を考慮した歯内治療	歯内 - 歯周疾患の病因と診断、治療法について説明する。 3-2)- 、3-2)- 、E-3-3)-(2)- 、E-3-3)-(3)- 加齢により全身的・精神的な特徴、さらには、歯の形態的特徴や歯髄・歯周組織の特徴は変化してくる。加齢に伴う、歯・歯髄・根尖歯周組織の変化について説明する。 高齢者の歯内治療の留意点について説明する。 E5-1)- 、	長澤 敏行

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

歯内療法学（前期）評価方法

- ・ [歯内療法学（前期講義）評価方法] 定期試験（100%）
- ・ [歯内療法学（前期実習）評価方法] 実習到達度（80%）、実習前小テスト（20%）
- ・ [判定法] 講義・実習ともに60点以上を合格とし、両者の平均を成績とする。

歯内療法学（後期）評価方法

- ・ [歯内療法学（後期講義）評価方法] 定期試験（100%）
- ・ [歯内療法学（後期実習）評価方法] 実習到達度（80%）、実習前小テスト（20%）
- ・ [判定法] 講義・実習ともに60点以上を合格とし、両者の平均を成績とする。

歯内療法学（前後期）評価方法

- ・ [判定法] 前期評価2に対し後期評価1の割合で評価し、60点以上を合格とする。

【教科書】

「第5版歯内治療学」医歯薬出版

講義時には必要に応じて資料を配布し、教科書と共に使用する。

【参考書】

「歯学生のための歯内療法学」医歯薬出版

「バイオロジーに基づいた実践歯内療法学」クインテッセンス出版

【備考】

確認テスト

【学修の準備】

- 予習は、次回の授業範囲の教科書を読んで理解しておくこと（各回あたり80分）。
- 復習は、教科書、プリントなどを活用し、学習を深めること（各回あたり80分）。
- ・ 確認テスト後には、その内容についてフィードバックを行う。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために、歯髄・根尖歯周組織疾患の診断・治療法を学修する（専門的実践能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を歯内療法学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を歯内療法学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を歯内療法学の観点から修得する（社会的貢献）。

【確認テスト】

確認テストにおいて知識の確認を行い、テスト後にはフィードバックを実施し、知識の整理とする。

【実務経験】

古市 保志（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、伊藤 修一（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、加藤幸紀（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯内療法学は、歯髄・根尖歯周組織疾患の治療を通じて口腔機能の回復の意義、う蝕予防の重要性、さらには歯内療法が口腔のみならず全身の健康に寄与する科目であることを理解する。学術的根拠に加え、実務経験を活かすことで、歯内療法学に関する優れた教育成果をあげることが期待できる教育内容である。